

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 042	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 イチゴの直売、観光農園経営に適した品種の育成について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 横浜川崎地域での施設イチゴ栽培は近年増加しており、販売は観光農園または直売（JA直売所、庭先販売）が主体となっている。（当所が実施している「イチゴセミナー」の受講者は、平成23年度5名（観光イチゴ狩り園3戸）、平成27年度受講者13名（観光イチゴ狩り園10戸）と増加しており、新たに観光農園や直売を始める意向のある生産者の相談が年2戸程度ある。） 現在の品種は、「紅ほっぺ」を主体に複数の品種を作付しているが、管内では年明けからの観光イチゴ狩りや販売が多く、食味が良く、収量が高いオリジナル品種は経営にプラスになるため、農業収益の向上ができるよう、育種を更に進める必要がある。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名    (①、②、④の場合) 新たななかなかわ特産品の開発 野菜の新品種育成 促成栽培イチゴの新品種育成			
対応の内容等 現在、本県の促成栽培に適した県オリジナルのイチゴ品種の育成に努めているところです。早生性があり、作期を通じて糖酸比の変化が少なく良食味であること、果形が整形で2L中心の大果であり、色艶に優れ、果実硬度が一定以上であることなどの特性を有し、さらに、本県のイチゴ生産の主流となっている市場出荷及び観光つみとり園及び直売のいずれにも対応可能であることを目標に行ってまいりました。 現在、新品種候補として有望な系統を絞り込み、品種化に向けて試験を行っておりますので、品種化した際には、現地実証は試験、導入後の栽培指導等ご協力をお願いします。			
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			